



二  
ユ  
ー  
ジ  
ー  
ラ  
ン  
ド  
環  
境  
フ  
ィ  
ー  
ル  
ド  
ワ  
ー  
ク  
視  
察  
を  
終  
え  
て

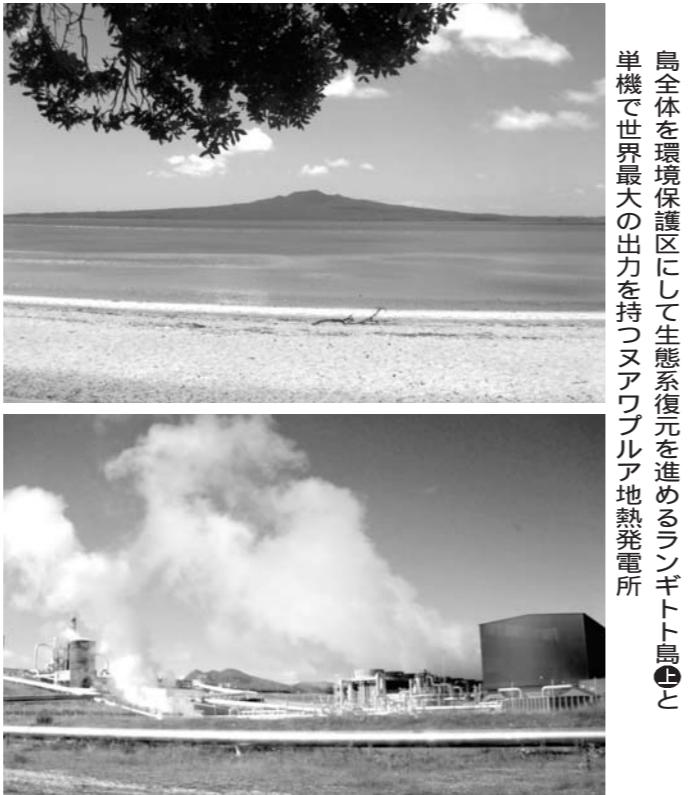


## 下井 泰典団長に聞く (日本環境認証機構社長)

5年前のアイスランド視察は、地熱活用と水素エネルギー社会の実現に向けた取り組みが焦点でした。二ユージー・ランド視察の狙いは、二ユージー・ランドが輸出額の3分の1を占め、林業も盛ん。また観光資源に恵まれ、年間240万人もの旅行者が訪れる観光立国でもあります。自然環境を生かして水力発電を主体にきたため再生可能エネルギー比率が高く、1980年には91・4%もあった。その後、電力需要の伸びに伴い天然ガス火力発電が急増し、09年には72・5%まで低下してしまった。ただ、政府は25年再生可能エネルギー比率を90%まで引き戻す計画を打ち出しており、昨春には同国北島に出力14万kwのクロウオウム、タカヘギト島全体を環境保護

5年前のアイスランド視察は、地熱活用と水素エネルギー社会の実現に向けた取り組みが焦点でした。二ユージー・ランド視察の狙いは、二ユージー・ランドが輸出額の3分の1を占め、林業も盛ん。また観光資源に恵まれ、年間240万人もの旅行者が訪れる観光立国でもあります。自然環境を生かして水力発電を主体にきたため再生可能エネルギー比率が高く、1980年には91・4%もあった。その後、電力需要の伸びに伴い天然ガス火力発電が急増し、09年には72・5%まで低下してしまった。ただ、政府は25年再生可能エネルギー比率を90%まで引き戻す計画を打ち出しており、昨春には同国北島に出力14万kwのクロウオウム、タカヘギト島全体を環境保護

## 生態系復元へ無人島化 大都市近郊で徹底した活動



## グリーンフォーラム21の活動報告

72年(昭47)東大工卒、同年三菱電機入社。04年環境推進本部本部長。06年に同会社グリーンフォーラム21/SCL国内委員会委員長。日本代表委員を務める。

# 資源・循環技術委員会 抄録



## 吉田委員長のコメント

今日の講演内容は、環境・CSR部門というより資材部をはじめ経営企画部などを含めた会社全体の話題といえます。サプライチェーン・マネジメント、リスク管理あるいは事業継続などといふ考え方であり、より戦略的な対応が必要であり、社内いろいろな部門と連携するとともに、業界団体などの中でもフードパックしていただきたいと思います。

(委員会参加者は)川中、「ただ、国にお任せします」というだけではリスク一だ

と思ひますので、できる限り戦略的にやっていくためのきっかけがあればありがたいと思ってあります。

そして、「ど元過ぎれば熱さ忘れる」ということのないようにしていただきたいです。

レアースはレア(希少)とされるが実はレアではない。埋蔵量は世界中に分布。ただ、生産は中国がほぼ独占している。

近年の「資源ナショナリズム」の台頭は、資源消費国による貪り手市場を「売り手市場に一変させよう」とする大きな背景にある。これ

に対し、わが国としては、中国のアフリカなどへの投資は「紐付き」融資

の特徴としては、資源確保対策として代替資源の開拓、資源開発の推進と権益化する。

次期経済対策において、レアース等鉱物資源の確保ためのアメタ

ル蓄積の四つの柱を強化する。

資源獲得競争は、今後ますます激しくなっていく

資源国の中でも特筆されるのは、中国の存在。私は、この中国の需要とは確実だ。

企業としても、資源国から現地化要請にどこまで応えるのか、即ち、多様な下流企業も相手国要請に産業協力の環境として関わっていくことが重

日刊工業新聞社のグリーンフォーラム21は、2010年度「資源・循環技術委員会」(吉田敬史委員長—グリーンフューチャーズ社長)を開催した。同委員会は、グリーンフォーラム21活動の要である研究会との相乗効果を引き出し、活動全体の充実・強化を図る目的で06年度に立ち上げた。10年度の委員会では、経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部鉱物資源課課長補佐の斎藤秀幸氏を講師に招き、総合テーマ「戦略的な取り組みの推進で、レアース(希土類)の安定確保」を取りあげた。

経済産業省  
資源エネルギー庁  
資源・燃料部  
鉱物資源課課長補佐

## 斎藤秀幸氏



# 鉱物資源確保と日本の資源政策

入れ、要求を強めていることも見受けない。特殊のブームは様々の様相を呈している。

「エネルギー基本計画」

こうした一方、2010年6月に閣議決定した

では、安定供給のため

政策資源の集中投入が必

要と考えられる重要なレ

アルミニウムについて必要な

政策を推進し、自給率を

30%に50%以上とする

とを目指している。

具体的には①海外資源

確保の推進②リサイクル

の推進③代替材料などの

開発④短期的な供給障害

に備えるためのアメタ

ル蓄積の四つの柱を強

化する。

資源確保策としては、

資源開拓、資源開発の推進と権益化する。

</